

図書館ニュース

図書館へいこう♪

No. 84

●平成25(2013)年4月20日●名古屋女子大学中学校高等学校図書館●

<http://lib.meiodai.ed.jp/>

大切な本との出会い

織田寿子 先生 (英語科)

子供の頃から読書が大好きでした。家に少年少女向けの本が多くあったので自然に読むようになったのですが、家族で外出した際は必ず本屋で1冊買ってもらうのが恒例でした。満面の笑みで本を抱えている写真があり、その当時は思い出します。「小公女」、「少女パレアナ」、「十五少年漂流記」、「スイスのロビンソン」、「ドリトル先生航海記」、「アルセーヌルパン」などをワクワク、ドキドキしながら読んでいました。伝記物語では、「キュリー夫人」がお気に入り、体調が悪くなると必ず読みたくなる本でした。中学生になると、ブロンテ姉妹の「ジェーン・エア」、「嵐が丘」、トルストイの「アンナ・カレーニナ」など、時を忘れて読みふけりました。日常とはかけ離れた別世界で、多くの素晴らしい登場人物たちと一緒に過ごした時間は、今でも私の大切な宝物です。

高校に入学すると、ノーベル文学賞受賞者の川端康成が大先輩であることを知って、「雪国」、「伊豆の踊り子」、「古都」などを読むようになり、日本語・日本文学の奥深さに触れることができました。その後も、夏目漱石、芥川龍之介、三島由紀夫などの作品を読んでいくにつれ、主人公の心情についてより深く考えるようになり、人が薦める本は読んでみるものだと思います。英語で書かれた簡単な物語を読み始めたのもこの頃です。英語の教科書に出てきた、オー・ヘンリーの「The Gift of the Magi」に感動し、「After Twenty Years」、「The Last Leaf」をはじめ、幾つかの短編を図書館で借りて読みました。高校時代に出会えて良かったと思える作家の一人です。

大学では、ヘミングウェイなどの文豪の他にジェーン・オースティン、バージニア・ウルフ、カーソン・マッカーラーズなど女性作家の作品に出会い、大いに刺激を受けました。また、ゴールディングの「Lord of the Flies」は衝撃的で、大人になったあの時期だからこそ受け入れられた作品だと思います。本は、人それぞれに出会う時期があるのでしょうか。20代後半は、ジェフリー・アーチャーの「Kane and Abel」がきっかけで、洋書のベストセラー小説に夢中になりました。映像化の構想を練るようになり、読書の楽しさは尽きないことを再認識したものです。

今は内容をほとんど覚えていない本もありますが、そのタイトルを目にすると、読んだ時の高揚感を思い出します。登場人物たちが、そのときそのときに私を鼓舞し、生き方を示してくれました。でも、本は向こうからは来てくれません。自分に合う本との出会いは、こちらからの働きかけが必要です。図書館は出会いの宝庫。まずは、図書館へ行って面白そうな本を探してみませんか。

図書館へいこう

図書館では、たくさんの企画や展示を行っています。また、図書館だけではなく教科や部活とも連携して活動しています。今回は、その一部を紹介したいと思います。

本を1冊読むごとに1スタンプ、5個スタンプがたまると図書館オリジナルブックカバーをプレゼントしている「読書スタンプカード」や、みなさんからの本のオススメ

読書スタンプカード



ブックカバー



図書館で楽しむ

コメントを展示しているオリジナルPOPコーナーなどがあります。

本を読むだけでなく、読んだ感想をPOPに書いてみんなにオススメしてみましょう！他の人が書いたコメントも次の読書のきっかけになると思います。

自分では手に取らなかったかもしれない本に出会えることでしょ。

オリジナルPOPの募集



高校3年生Ⅱ類の「国語表現Ⅱ」の授業では、図書館を利用して古典作品を紹介するレポートの作成を行いました。

数ある古典作品の中から一つを選び、興味を持った人物やできごとをテーマとして、中高図書館だけでなく大学の書籍も取り寄せて、豊富な資料を用いて調べます。そして

授業で活用

「週刊誌仕立てにすること」「B4サイズの用紙1枚におさめること」という条件でまとめます。そのためには資料を単純に切り貼りするだけでなく、必要な部分を取り出してそれを再構築することや、読み手に興味を抱かせる表現をすることが必要です。

授業では、「この発言はこういう気持ちからだよね」と話し合いながら、資料をかみくみ読んでいきます。そして人物像を想像してそれらしい口調でインタビューに答えさせたり、目を引く見出しを考えたりといろいろな工夫が凝らされたレポートが完成します。作品そのものだけでなく、話に出てくる調度品や当時の習慣についての解説なども加えられています。

図書館入り口にレポートの一部を展示しています。ぜひ一度読んで、古典の世界に触れてみてください。そして興味を持った作品があれば、元のお話を読むことにもチャレンジしてみましょう。わかりやすく現代語訳されたものもありますよ。
(国語科 古泉 祥)



放送部はお昼の校内放送で「図書館からのお知らせ」をアナウンスしています。私たち放送部員のアナウンスを聞いて図書館に足を運んでくれた人もいますので、私たちにとってもうれしく思っています。

私たち放送部員は放送の県大会に出場しています。出場部門は「アナウンス部門」と「朗読部門」です。アナウンス部門は伝えたい情報を正確に分かりやすく伝えます。「図書館からのお知らせ」のアナウンスのレコーディングは私たちにとって最高の練習にもなっています。

朗読部門は物語の情景や登場人物の気持ちを読み聞かせる人に伝えます。私たちの活動にも図書館の本との出会いがあります。

部活と連携

このように声で伝えることに青春をかけている放送部員の高校生がたくさんいます。私たち放送部員は全国大会の決勝の舞台「NHKホール」を夢見て、アナウンスをしています。私たちの「図書館からのお知らせ」アナウンスを聞いて図書館に足を運んでくれる人が増えるように伝えることができれば、私たちは夢に近づいていると思います。

これからも皆さんが図書館で素敵な本と出会うお手伝いができるようにアナウンスしていきたいです。

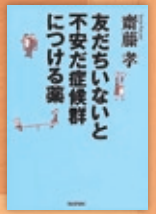
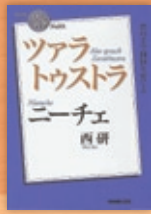
(放送部)



お昼の放送で紹介した本

おすすめ本棚

本校図書館おすすめの本をずらりと本棚風に並べてみました。みなさんの本棚にはこれからどんな本が並ぶのでしょうか？ 自分の読書記録を「名女の素100のレシピ」に記録して「my 本棚」を作るのもおすすめです。



新書

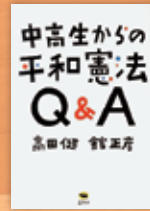
0 総記

1 哲学

10代の哲学さんぽ 3
なぜ世界には戦争があるんだろう。どうして人はあらそうの？

ミリアム・ルヴォー・ダロンヌ著
初めてふれる哲学の本として編集されたシリーズの第3巻。テーマは「戦争」です。戦争が好きでたまらない人間なんていないよね？なのにどうして戦争はなくなるの？と、思わず立ちどまって考えさせる疑問を投げかけ、ルソー、ホッブズ、カントなど、歴代の哲学者の名言を随所にちりばめながら、やさしく哲学的思考へと誘います。

100
J
3

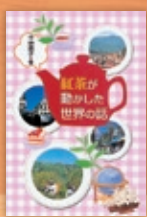


2 歴史

3 社会科学

希望 命のメッセージ
鎌田 實・佐藤真紀著
チェルノブイリ救援活動やイラクへの医療支援に取り組む医師、鎌田實が見た東日本大震災の被災地の惨状と、そんな中からも見出される人々の希望を、現地の写真と鎌田氏のあたたかい言葉で伝えた一冊。後半には、イラクの現状を伝える写真とともに「命のメッセージ」がみつがれます。

369
K



NHK ど〜する？ 地球のあした
NHK出版編
何気ない日常生活に潜む問題を「食べもの・水・ゴミ・自然・温暖化」という切り口で紹介するとともに、それぞれの問題は単独で起こっているのではなく、つながっていることを教えてくれる本です。また、自分が地球環境にどのような影響を与えるかを知ること、今を生きている自分たちが、地球の未来のために何ができるかをわかりやすく学べます。

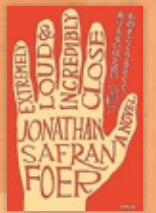
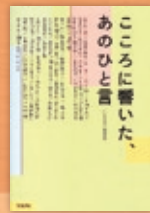
519
N

6 産業

7 芸術

一人ひとりのまちづくり
神戸市長田区・再生の物語
中和正彦著
阪神・淡路大震災で、大きな被害を受けた神戸市長田区によるユニバーサルデザインのまちづくりを、紹介したドキュメントです。ユニバーサルデザインと聞くと、全ての人に使いやすいモノや環境のデザインと捉えがちですが、この本を読めば、本当のユニバーサルデザインとは、「心の垣根」を取り払うことから始まるということがよく理解できます。

601
N



8 言語

9 文学

プラテロとわたし
J.R. ヒメネス著
ノーベル文学賞を受賞したスペインの詩人 J.R. ヒメネスの代表作で、詩人である「わたし」がロバのプラテロに語りかける形をとった散文詩集です。弱い者にやさしく寄り添うようなその言葉は非常に美しく、どこまでも静かにつむがれます。長新太による可愛らしい挿絵にも注目です。

961
J

何者
朝井リョウ著
就活の情報交換をきっかけに集まった、五人の若者。学生団体のリーダー、海外ボランティア、手作りの名刺…自分を生き抜くために必要なことは、何なのか。この世界を組み変える力は、どこから生まれ来るのか。影を宿しながら光に向いて進む、就活大学生の自意識をリアルにあぶりだす物語。第148回直木賞受賞作。

913
A



平成24年度卒業記念寄贈品紹介

昨年度、高校を卒業した先輩より卒業記念にたくさんの贈り物を頂きましたので、紹介します。

学習用テーブル3個

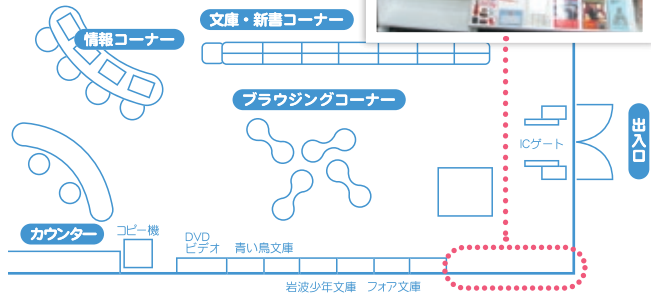
ブラウジングコーナー用のテーブルとして三角形のテーブルを3個寄贈していただきました。



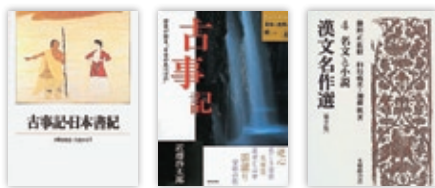
三角形の組み合わせで様々な形を変えられるので、雑誌や新聞を見るためにはもちろん、授業中に数人で調べ物をするときにも活用してもらえます。

雑誌架

図書館では、昨年度から新たに「月刊新聞ダイジェスト」と「美術手帖」の2誌の購読を始めました。そのため、いままでの雑誌架では収まりきらなくなり、あらたに書架を寄贈していただきました。雑誌、新着図書用の書架として活用していきます。



『新潮日本古典文学アルバム』 『ビジュアル版日本の古典に親しむ』 『漢文名作選 (第2集)』



高校国語での調べ学習用に古典、漢文の資料を寄贈していただきました。調べ学習だけでなく、教養のためにもぜひ手にとってみてください。

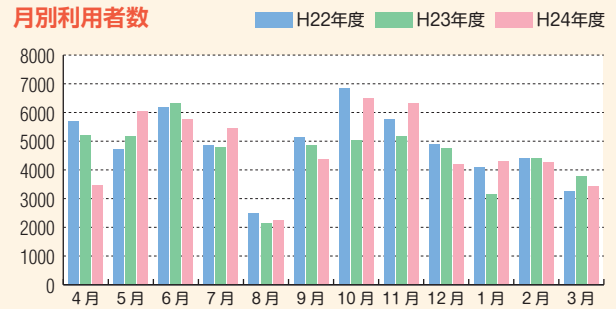
編集後記

新学期を迎え新しい学年に気持ちも一新、今年はたくさん本を読もうと思っている人も多いのではないのでしょうか。図書館は、本の貸し出しや閲覧だけでなく、授業やクラブ活動の発表の場として、友達との本の情報交換の場として、学校生活のさまざまな場面でみなさんの身近な施設として活用されています。今回の特集『図書館にいこう!』ではそうした図書館の企画や活動の一部を紹介しましたが、みなさんご存じでしたか? 新学期、新入生のみならず、在学のみならずぜひ図書館に来てみてください。新しい発見や出会いが待っていますよ。

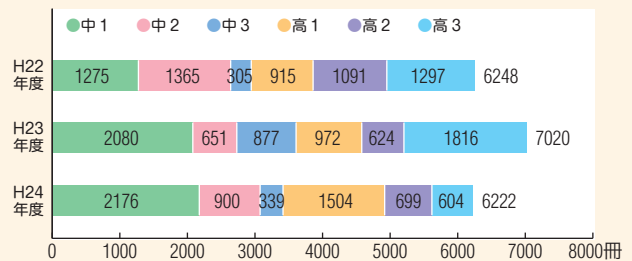
平成24年度利用状況

行事の関係か、月によっては前年度の利用者数を下回る月もあるものの、おおむね前年度比増でした。朝読書による読書習慣の定着や調べ物や自己学習での図書館利用が定着してきたことが伺えます。

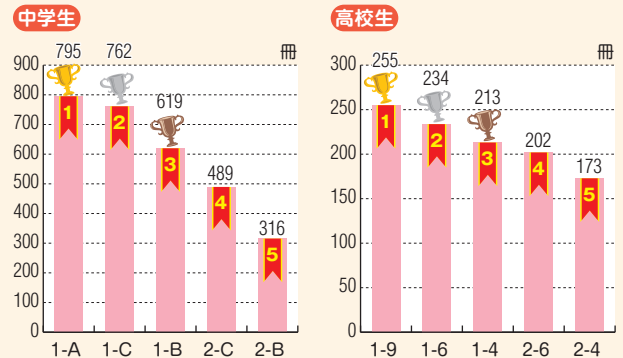
月別利用者数



学年別貸出冊数 [過去3年比較]

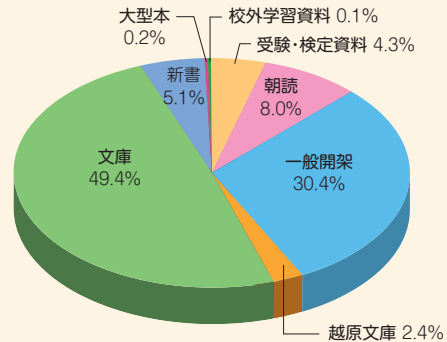


貸出冊数上位ランキング



中学生は主に文庫の貸出を利用していることが多かったようです。高校生は授業での図書館利用が少なかったため、授業用の資料の貸出が少なくなりましたが、自分の読書や自己学習のための貸出が多く見受けられました。

コーナー別貸出比率



今年は文庫が充実したせいも、昨年度より文庫の貸出比率が10%アップしました。朝読コーナーや受験検定コーナーも安定した貸出を維持しています。図書館にどのような本があるかという認識が定着し、必要に応じて活用しているようです。